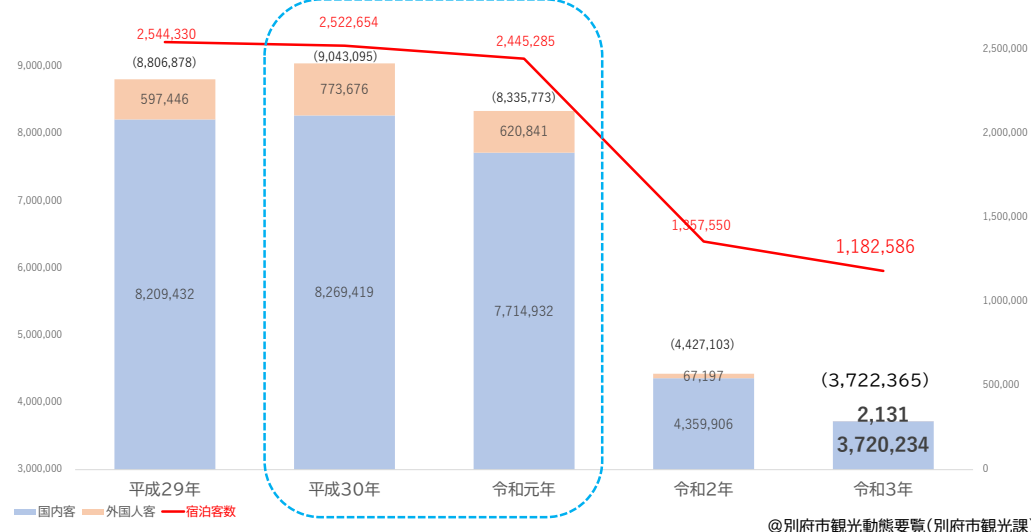




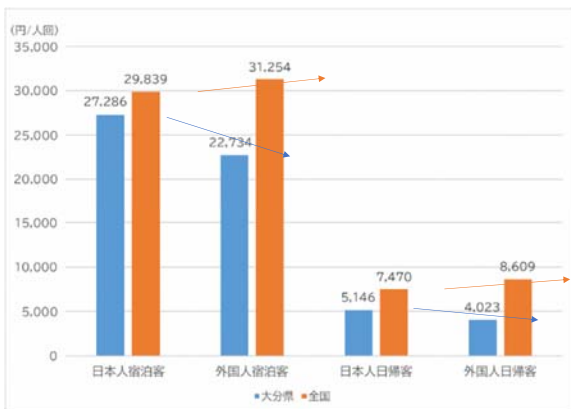
別府市のユニバーサルツーリズム の取り組みについて

別府市観光・産業部 観光課

観光客数と宿泊客数の推移（平成29年～令和3年）



大分県及び全国の1人当たり観光消費額（2019年）



- 日本人、外国人ともに全国平均よりも1人当たり観光消費額が少ない傾向にある
- 全国平均においては、外国人観光客の方が、高いのに対して、大分県においては、外国人観光客の方が、低くなっている

→全体として、1人当たり観光消費額が低調であるが、特に外国人消費額の低い点が特徴的

※1 いずれも観光庁共通基準による観光入込客統計より九経調作成
※2 全国分は2021年7月末現在で公開されている31県のデータから算出している

別府市及び主要温泉地等の平均宿泊数（2019年）

市町村名	平均
全国(主な市町村)平均	1.27
大分県別府市	1.09
秋田県仙北市(玉川温泉)	1.44
群馬県草津町(草津温泉)	1.09
神奈川県箱根町(箱根温泉)	1.18
静岡県熱海市(熱海温泉)	1.18
熊本県南小国町(黒川温泉)	1.05
大分県由布市	1.11
北海道札幌市	1.43
沖縄県那覇市	1.51

- 宿泊旅行統計調査より、主な市町村の延べ宿泊者数と実宿泊者数より平均宿泊数を算定
(平均宿泊数) = (延べ宿泊者数) / (実宿泊者数)
- 別府市を始め、多くの温泉地は、全国平均を下回っている
- 平均を上回っている市町村は、都市部を始め、沖縄県や北海道の市町村、別荘地やスキーの盛んな地域
- その中で湯治で有名な、秋田玉川温泉は平均を上回っている

▶別府市に限らないが、温泉地は平均宿泊数が少ない傾向にある

※観光庁「宿泊旅行統計調査」第2次速報値2019年1月～12月分より九経調作成

課題

- ①長期滞在の仕掛けが弱い
- ②観光消費額が低い

別府市の取組「稼ぐ力の向上へ」

観光の4本柱



様々な観光課題に対し、産業間の連携による別府観光の魅力向上を通じた観光産業の稼ぐ力の向上、持続可能な観光を目指しています。

- 「ユニバーサルツーリズム」
- 「免疫力日本一宣言の実現」
- 「観光DX」
- 「食×観光」

の4項目を主要な柱として、取り組んでいます。

別府観光ありかた検討会議の政策提案（R3.12月）

別府市が抱える「観光客1人当たり観光消費額が低く、同じく宿泊客の平均宿泊数が全国より低い」という課題の解決には、「高齢者・障がい者の方々の受入環境を整備し、日本一のユニバーサルツーリズム都市を目指すこと」が有効である。

なぜなら「高齢者・障がい者の方々は、長期滞在や平日の宿泊が多い傾向にあり、平均宿泊数が増加する」という効果が見込まれるからだ。

実現に向けては「市民を含め観光客に向けた広報の充実、観光事業者と福祉事業者の連携、関係者への研修」が必要であり、具体的には、「**広報や受入環境整備に向けたソフト面の拡充を市内バリアフリーツアー関係者と連携して推進する**」ことを提案する。

第2期別府市総合戦略（べっぴん未来共創戦略）（R2.3月）

2 しごとの創生

多様性と受容性をいかして、別府に新しいひとの流れをつくり、受け入れる。

（2）具体的な施策、主な取組

施策ア 世界一の温泉観光都市への挑戦（新たな観光資源の開発と進化）

取組③ ユニバーサルツーリズムの先進地に向けた整備

ユニバーサルツーリズムの世界的な先進地を目指し、ハード面及びソフト面の整備に取り組む。

- ・高齢者や障がい者が安心して旅行ができる体制の整備
- ・宿泊施設、観光施設、温泉施設などのバリアフリー化の推進
- ・国や県の取組も含めた、関連施設や道路の整備事業などと併せた段階的なハード面の整備
- ・民間事業者との連携による介助サービスの提供などのソフト面の整備

デジタル田園都市国家構想交付金

地方創生推進タイプ（横展開型）

○誰もが思いっきり別府を楽しむことができる
「べっぷユニバーサルツーリズム」の実現を目指す

■ユニバーサルツーリズム推進事業

国際観光温泉文化都市「べっぷ」には、年間約800～900万人の観光客が訪れており、その中には高齢者や障がいのある人、小さな子ども連れの家族や外国人観光客など、訪れる人は様々です。少子高齢化が懸念される現在、ユニバーサルツーリズムに対する需要やニーズは高まっており、その必要性は今後さらに増していくことが考えられます。また、誰もが安心して訪れることができる観光地づくりに取り組むことで、観光客の増加や経済の活性化、共生社会の実現に繋がることが期待されています。別府市でも「ユニバーサルツーリズム」は重要な政策の一つと捉え、令和4年度から「NPO法人自立支援センターおおい」と協働で『別府市ユニバーサルツーリズム推進事業』を実施しています。

モニターツアー

1泊2日の日程で市内の観光地や温泉、飲食店を巡るツアーを実施しました。車いす利用者だからこその気付きや意見をもとにユニバーサルな旅を提案していきます。

ユニバーサルツーリズムとは
「全ての人が楽しめるように作られた旅行であり、高齢や障がいなどの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行」を指します。



啓発活動

小中学校や地区公民館で取組の紹介などを行い、バリアフリーについて向き合い、考える機会を作っています。



バリアフリー調査

「観光」「飲食店」「宿泊」「温泉」「交通」各分野の調査を行い、バリアフリー観光情報サイト「ばらべっぷ」で情報発信を行い、旅マエ・旅ナカの安心を提供しています。



温泉入浴介助

障がいのある人や高齢者でも気軽に温泉を楽しむよう、介護ヘルパーが入浴をサポートする取組を行っています。



接遇研修

高齢者や障がいのある人への配慮に対する接遇力の向上を目的に観光関係者や事業者を対象に研修会を開催しています。



レンタルサービス

旅先での車いすやベビーカーレンタルのニーズに対応するため、別府駅構内にある観光案内所「ワンダーコンパスベップ」で貸出サービスを実施しています。



各分野の観光を楽しくハッピーに！

別府・大分バリアフリーツアーセンター

Beppu/Oita Barrier Free Tour Center

Google 検索

Language

☎090-6633-4882

営業時間：9:00～17:00 | 定休日：日曜日

目的で探す

バリアフリーMAP サービス センターについて お問い合わせ Facebook Instagram



目的で探す



地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業の採択（観光庁）

○宿泊施設、観光施設等の改修、廃屋撤去、面的DX化などの取組の支援

全国でも最大規模の地域計画を取りまとめ申請

計画地域：大分県別府市
観光客一人ひとりの健康状態やニーズに合わせた新たな温泉体験を提供する、新湯治・ウェルネスツーリズムの実現に向け、個別のニーズに合わせた宿泊施設の高付加価値化改修や温泉街の雰囲気を感じられる外観改修を実施。

総額 約43億円

令和4年度 20事業 約9億5千万円
令和5年度 65事業 約33億4千万円



高付加価値化事業（事例1） おにやまホテル



高付加価値化事業（事例2） ホテル好楽



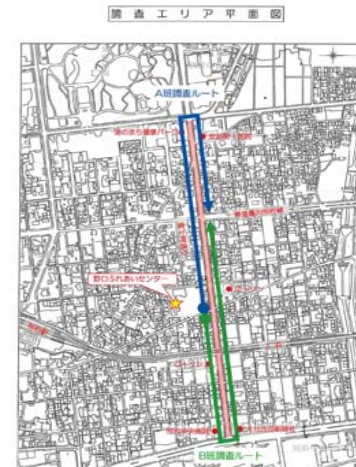
道路整備事業（現地合同調査）

●現地合同調査の目的
市道の代表区間において、現地調査および点検を市の担当者および障害のある方とともに行う。健常者も実際に車いすに乗って歩道の走行を体験し、バリアフリーの意識の向上を図り、当事者が抱える問題の共通認識を得て、歩行空間の改善を行うことを目的とする。また、問題点や意見は、他の市道の調査においても反映させる。

●第1回調査
・日 時：令和3年6月29日（火）
・路 線：市道 富士見通線
・参加者
別府市障害福祉課、別府市都市整備課、大分県別府土木事務所、NPO法人自立支援センターおいた、別府市身体障害者福祉団体協議会、株式会社ツツミ技研



現地合同調査の様子（富士見通線 A班）



①グレーチングの向き、溝幅によっては、車輪や杖をとられる。



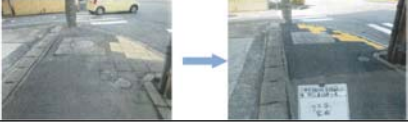
②歩道部の横断勾配により、ハンドルをとられる。



③インターロックの不陸の悪化による、つまずきや車輪のガタツキがある。



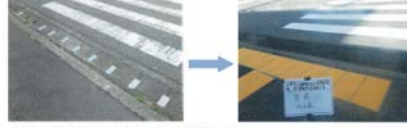
④マンホールとアスファルトの段差による、つまずきや車輪のガタツキがある。



⑤歩道部と横断歩道との段差や乗入部の勾配による、つまずきや車輪のガタツキでもたつくことがあり、信号の横断が間に合わないことがある。



⑥横断歩道部に側溝がある場合、蓋の穴に車輪や杖をとられる。



⑦点字ブロックの破損やすり減り、配置の不備がみられる。



⑧水路のコンクリート蓋のガタツキにより、ハンドルをとられる。



訪問入浴による温泉効能トラッキング事業

事業目的

温泉の効能等を活かした訪問入浴サービスによって、温泉施設を通常利用することが困難な方に対し、多様な泉質の恩恵を提供し、その生活の質(QOL)を向上を目指す。

現状

在宅重度障害者



水道水を利用した
訪問入浴



次年度調査

①



温泉を利用した
訪問入浴



②



温泉による効能評価
ADL評価
(理学療法士協会)
心理評価
(西別府病院)